

令和3年度 立川市立第一小学校 授業改善推進プラン

学校教育目標	○自分で考え行動する子	○心豊かで思いやりのある子	○体をきたえ元気な子
--------	-------------	---------------	------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力を基盤に、諸能力を活用し、協働して問題解決に努める力 ○他者を思いやった行動ができ、すすんで共助・共生に努める力 ○自他の健康安全に配慮でき、すすんで心身の健康の保持増進に努める力 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究と連動した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、対話型授業による学力（思考力、判断力、表現力等）の育成 ・一人一台タブレット PC の効果的活用を図り、習熟度別指導や多様な学習機会の創造、補充的な学習を通し、児童の学習意欲の向上

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の話の大切なことや中心部分などに気を付けて正しく内容を聞き取るとともに、自分と相手の話を関連付けながら話し合い、考えをひろげたり深めたりすることができるようになる。 ○目的意識（誰に、何のために）をもって、自分が伝えたいことが相手に伝わるように、文の構成や言葉の関係を意識して文章を書くことができるようになる。 ○目的意識をもち、文章中の叙述から必要な事柄を探しながら読み取るとともに、読み取った事柄について自分の考えをもつことができるようになる。 ○語彙を豊かにするとともに、既習の漢字をあらゆる生活場面ですすんで使うことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に目的意識をもって取り組み、事前に必要な情報を確認したり、大事な言葉をメモしたりしながら話し合うようにさせる。必要に応じて、モデルとなる話し合いを提示し、優れた話し合いのイメージを共有する。 ・「誰に」「どのような目的で」文章を書くのか、一人一人が明確に意識をもって書けるように、相手意識や目的意識を教師が声掛けする。また、モデルとなる文章を提示し、文章全体の構造や表現の工夫について確認する。 ・最初の段階で、文章の構造を確認するとともに、物語や説明文をどのような目的で読むのかを、単元の前半で押さえ、そのために必要な手がかりとなる叙述（言ったこと・行動・様子・気持ちなど）を共有する。 ・新出漢字練習時、意味や関連する語句などを踏まえた練習を継続する。読書量を増やし、様々な語彙や漢字に触れる環境作りに努める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことを適切に表現したりできるようになる。 ○社会的事象について、社会生活に生かそうとし、主体的に学習問題を解決しようとするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に関連付けながら資料を読み取ったり、調べたり考えたりできるように、柴崎図書館やタブレット PC などを活用し、情報の収集やまとめなどが行えるように指導計画の工夫をする。また、分かったことや考えたことを発表し合い、クラス全体で共有する。そこから新たな気づきを付け足したり修正したりするように指導する。 ・自分の生活と関連付けて考えられるような振り返りをし、学習内容を深められるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを順序立てて説明したり、どのような解き方をしたか、わかりやすく説明したりできるようになる。 ○速く解くことを意識しケアレスミスをする傾向が見られるため、見直しを大切にし、確実に解くことができるようになる。 ○問題に対して自分の考えをもつことができるようになってきているが、発表する児童に限られているため、自分の考えを全体に共有できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を解く際には、どの言葉に着目することで判断できるのか考えさせ、線を引かせ確かめるように指導する。また、具体物や図、絵、数直線などを用いて考えさせ、正しく立式できるようにさせる。 ・問題を解き終わった際に、答えが聞かれていることに合っているか、単位の間違いないか確かめさせるよう指導する。 ・考えをノートに書き、ICTも活用しながら考えを共有できる時間を設定し、意図的に表現する学習を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の結果と結論（考察）を区別して考えることや、結果を結びつけて考えることに課題があるため、実験や観察など学習の流れを把握し、自分の考えをまとめられるようになる。 ○問題解決に向けて、どのような実験を行うのが妥当か考えられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題」、「予想と根拠」、「実験と結果」、「結果から分かったこと（結論）」といった1単位時間の学習の流れを明確化し、グループで交流するなどして「結果」から「結論」へと考えを深められるようにする。 ・実験や観察の前に、学習問題を確かめたり、結果の見通しをもって小集団で方法を検討したりすることで、実験や観察の目的や知りたいことを明確にして取り組めるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の変化や季節の様子など、気付いたことをくわしく、カードに絵や文で表すことができるようになる。 ○個人差があるが、児童自らの発見や気づきがたくさんできるようになる。 ○季節や時期に合った動植物を、よりたくさん知ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察をするときには、観察の観点や観察のポイント（におい、手触り、色、大きさ、形など）を繰り返し確認する。また、表現の豊かな児童のカードを共有したり、タブレットで写真を撮って詳しく観察したりして個別に支援を行う。 ・体験活動を意識的に取り入れ、観察するポイントを具体的に伝える。ICT を活用し書き方を共有していく。 ・季節を感じられるものを意識的に取り上げて紹介したり、季節や時期に見られるものを実物や画像などを積極的に活用したりしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しんで活動を行い、リズム感や歌唱、器楽演奏といった基本的な技能を身に付けられるようになる。 ○自分の思いや意図をもって、互いの演奏を聴き合いながらよりよい表現ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム感を定着させるために、常時活動やリズムを言葉に置き換えて覚えるようにする。また、ICT を活用して、音符の仕組みやリズムなどを理解させる。 ・自分の思いにあった表現をするために、演奏範囲を区切って練習するなどの工夫をする。また、自分の演奏している動画などを活用し、良さや苦手なところを確認して技能の向上を図る。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○材料や用具の使い方を身に付ける力を養い、自分の表したいことが表せるようになる。 ○自分の表したいことを見付けたり、表したりすることができるようになる。 ○表現をしながら自分の思いを深めたり、さらに工夫して表すために材料に働きかけたりできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた材料や用具の使い方を身に付けさせることで、既習事項を生かしながら自分の表したいことが表せるように指導する。 ・鑑賞と表現の一体化を目指し、作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方や感じ方を深め、表現の幅を広げていくように指導する。 ・図工の授業内での活動にとどまらず、様々な場面において、形や色などと豊かに関わる資質・能力を働かせることができるように、身の回りのことにも目を向けさせ、造形的な見方や感じ方を深められるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○実習ができない単元では、実感を伴った理解が難しいため、日常生活と結び付けて考え、実践しようという意識をもつことができるようになる。 ○既存の知識で満足しさらに深めようとする意識が十分でないので、多様な考えを生み出せるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常生活に身近な例を取り上げ、意欲的に考えられる問題設定をする。技能を身につけるために、保護者と連携し、家庭で反復した実践を呼びかける。 ・問題に対して多様な答えが生まれるよう、小集団での話し合いから全体へ広げる。衣食住は生活していく中で切り離せないものであり、普段の生活の中では、保護者が果たしている役割の大きさに気付かせるとともに、自ら家族のために協力しようとする心情を養う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○シャトルランや50m走などの「走」の力を高められるようになる。 ○体を動かす経験が十分でない児童がいるため、自身の課題を理解し、めあてを決めて取り組んだり、技能を高めたりしようとするようになる。 ○健康・安全を意識して、運動に取り組むことができるようになる。 ○体を使って表現したり、チームの話し合いで助言したりできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキットトレーニングや準備運動の工夫を行い、持久力を高められるようにする。 ・運動の特性に注目させ、自身の課題がどこにあるのか考えさせたり、練習したりする取り組みを繰り返し行い、「体を動かす心地よさ」を味わえるように指導していく。 ・運動をすることで、自分の健康や安全について考えられるように運動特性に合わせた指導を行う。 ・個人やグループで課題を見付け、その解決に向けた話し合いをしたり、練習したりできるように授業を行う。また、学年の実態に合わせた個別のルールを設定するなど、運動する楽しさを味わうことのできる工夫を行う。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを英語で伝えることを苦手とする傾向が見られるため、英語に親しむことができるようになる。 ○自分の考えや思いを積極的に英語で話したり、書いたりすることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら英語に親しむことができるよう、英語の歌やジェスチャークイズ等のアクティビティを多く取り入れる。 ・単元で使う単語や表現を声に出して繰り返し練習をしたり、自分の思いや考えを伝えるときの伝え方をあらかじめ例示したりすることで、どの児童もアクティビティに参加できるようにする。書く活動を取り入れ、4線の上に正しいアルファベットで書けるように、なぞり書きや写し書きを取り入れて指導する。